

## C 4 R 学校の学校評価システム

角野雅芳（東京）

### 要旨

### キーワード：

C 4 R 学校は、アドラー心理学に基づく唯一の学校システムです。C 4 R 学校のユニークな教育システムの概要については、本誌「アドレリアン」に翻訳された「個人教育トレーニングマニュアル1・2（第4巻第2号，1991；第5巻第1号，1991）」の中で説明してきました。

この学校のシステムを維持し、4つの目標を単なる御題目で終わらせないためには、できる限り客観的、定量的な学校評価システムを持たなければなりません。今回は、C 4 R 学校の特色と利点に対する理解を深めるために、「C 4 R 学校の手引き（C4R Manual）」の13章（原文にはページ数の表示がない）の中に記載されているC 4 R 学校の学校評価システムについて紹介します。

学校の先生方には、「学校生活の中での子供たちの具体的ななどという行動が、4つの目標に関係するのか。」を考えるよい機会になると思います。C 4 R 学校は子供たちを評価するだけでなく、学校自体を評価する以下の4つのシステムをもっています。

C 4 R 学校の4つの評価システム	
1	教科学習の標準学力テストの結果
2	教員と両親のC 4 R 質問調査書
3	評価委員会の実地調査（C 4 R 評価表）
4	教員経験者の実地訪問

これらの評価システムは、「子供たちはこの学校で学力を向上させているか。」、「子供たちはこの学校で4つの目標を達成しているか。」、「この学校はC 4 R システムを維持しているか。」、「他の教育経験者はこの学校をどう評価するか。」ということの評価するものです。学校長は、自分の感覚だけでなく他の人々によるこれらの評価結果を参考にして、学校運営を進めます。以下に、各評価システムについての説明をします。

## 1. 教科学習の標準学力テストの結果

C4R学校は子供たちが短期間に伝統的な学校と同じだけの量を学ぶことを期待しています。教科学習の測定は信頼できる標準学力テストに基づかなければなりません。標準学力テストの結果から学校は子供たちに適切な教科教育を提供しているかどうかを評価します。

## 2. 教員と両親のC4R質問調査書

C4R学校は子供たちが、より責任を持ち、より尊敬し合い、より生活力をつけ、そしてより社会性を身につけることを願っています。子供どもたちのこれらの4つの目標の達成度について、子供どもたちを良く知っている大人たちが子供どもたちを評価します。それらは基本的にTA (Teacher/Advisor, 教師兼助言者) と両親たちを評価しています。

3, 4ヶ月毎に教員たちや両親たちはこれらの4つの目標の局面を表すように選ばれた40項目について子供どもたちを評価します。質問調査シートには、例えば責任という目標に関して「規律を良く守る。」といった質問が10個用意されていて、1つの質問に対して0点から3点の数字を記入する様になっています。4R合計チャートにはその4つの目標毎の評価点数の合計の時間的変化が記録されます。4R合計チャートの目的は子供の全体的進歩をみることです。評価書類は校長室の安全な中央ファイルに保管されます。以下にC4R質問調査書の使用方法例を挙げます。

### ----- C4R質問調査書の使用方法例 -----

- 1 時間を追って各々の子供たちの発達を調べること。
- 2 年齢、性別等で異なるタイプの子供たち同志を比較すること。
- 3 カウンセリング等の様々な対処の仕方の有効性を検討すること。
- 4 子供の父と母の様な異なる評価者同志の比較をすること。
- 5 個々の子供の問題を明確にすること。
- 6 異なるシステムを持つ学校間や近隣の学校間を比較をすること。

## 3. 評価委員会の実地調査

評価委員会は個人教育国際協会 (Individual Education International) のメンバー1名と校長か学校監督者によって選ばれた2名の計3名から成ります。彼らは、校長、教員、事務員、用務員、生徒、両親たちと会って、C4R評価表に基づく評価を行います。C4R評価表はその学校がどの程度C4Rシステムを採用しているかを評価するもので、以下の25項目の質問事項からなっています。評価の仕方は各々の質問事項が実施されていれば“1”を記入し、そうでなければ“0”を記入します。評価の目的はその学校が良いかどうかではなくて、その学校がどの程度C4Rシステムとして機能しているかを調べる事です。したがって、100%の機能率の学校が0%の機能率の学校より教育的成果を上げていないかもしれません。彼らの中の年長の評価者は、教員たち

C 4 R 質問調査シート

-----  
 子供氏名 ( ) 評価者氏名 ( ) 日付 ( )

責任

- 1 ( ) 行儀良く学校にいる。
- 2 ( ) 約束を守る。
- 3 ( ) きちんと仕事をする。
- 4 ( ) 規律をよく守る。
- 5 ( ) 仕事を仕上げる。
- 6 ( ) やるべき事を忘れない。
- 7 ( ) 散らかしたままにしない。
- 8 ( ) 服装に気を配る。
- 9 ( ) 信頼される。
- 10 ( ) 使ったものを元に戻す。

尊敬

- 1 ( ) 公正である。
- 2 ( ) 順番を待てる。
- 3 ( ) 丁寧である。
- 4 ( ) 支配的でない。
- 5 ( ) 人を叩かない。
- 6 ( ) 規則を守って遊べる。
- 7 ( ) ものを大切に作る。
- 8 ( ) よく遊ぶ。
- 9 ( ) 騒がしくない。
- 10 ( ) 人の話をよく聞いている。

社会性

- 1 ( ) 人の役に立つ。
- 2 ( ) 人に優しい。
- 3 ( ) 人の感情に注意する。
- 4 ( ) 人とよく働く。
- 5 ( ) うまく負けられる。
- 6 ( ) 友好的である。
- 7 ( ) アイデアを出して貢献する。
- 8 ( ) 協力的に振舞える。
- 9 ( ) 誰とでも自由に話ができる。
- 10 ( ) 人から好かれる。

生活力

- 1 ( ) リーダーシップを発揮する。
- 2 ( ) 新しい状況に適応する。
- 3 ( ) 自分の力でよく仕事をする。
- 4 ( ) 一生懸命やる。
- 5 ( ) 失敗から学ぶ。
- 6 ( ) 自立している。
- 7 ( ) 好奇心がある。
- 8 ( ) 計画性がある。
- 9 ( ) 学ぶことに興味を持っている。
- 10 ( ) 粘り強い

責任 ( ) 尊敬 ( ) 社会性 ( ) 生活力 ( ) 合計点 ( )

になぜその評価が与えられたのかを説明し、改善案を提示しなければなりません。

例えば「C 4 Rの教職員は子供がその場にいるときにその子について親と話し合っていない。」という規則があります。教職員がこの規則に従っていないときには、C 4 R評価表の 22番目の「教職員はC 4 Rの規則に準じて両親との連絡を行っている。」という項目が“0”の評価を受けます。かつて教職員はこの規則に対して反対をしたことがありました。しかしながら評価委員たちは教職員たちに、多くの子供たちはこの規則が破られていることについて不満を持っていることを知らせ、例えば「うちの子は学校でよくやっていますか。」「はい、よくやっていますよ。」というような親との立ち話を教職員が朝夕頻繁にしていたことを指摘しました。それ以来、教職員たちは自分たちがC 4 Rの規則違反をしていることを知って、親との立ち話を止めなければならませんでした。

9番目には「授業では出席が取られていない。」とありますが、これは教科プログラムと創造性プログラムの授業に関することです。子供たちは図書室や学習室で勉強できるので、ゆっくり一人で勉強したい子や授業の内容が解ってしまっている子や友達に教えて学びたい子は授業に出

## C 4 R 評価表

-----  
学校名 (            )      評価者氏名 (            )      日付 (            )

- 1 (   ) 両親を含む全ての人がC 4 Rシステムを理解している。
- 2 (   ) 全ての職員が適切にC 4 Rシステムを理解するように配慮されている。
- 3 (   ) 全ての両親は5回の親会に参加している。
- 4 (   ) 全ての子供が自分の意志に反して強制されていない。
- 5 (   ) 教職員は子供を尊敬している。
- 6 (   ) 子供たちはどんな時にもどんなレベルの如何なるクラスにも出る事が許されている。
- 7 (   ) 子供たちは教科あるいは創造性のコースの授業に行かなくてもよい。
- 8 (   ) 子供たちを勉強させるための如何なる脅しも使われていない。
- 9 (   ) 授業では出席がとられていない。
- 10 (   ) 子供たちは自由に大人たちの監督下にある他の場所に移動できる。
- 11 (   ) 図書館と勉強室は全ての授業の時間のあいだ開いている。
- 12 (   ) 図書館では完全に静かにする規則がある。
- 13 (   ) 子供たちは自分たちがT A (教師兼助言者) を替える要求をする権利がある事を知っている。
- 14 (   ) 全ての子供が自分で選んだ毎週の討論グループに入っている。
- 15 (   ) 教職員は3つのプログラム (教科、創造性・社会性) にはほぼ等しい時間を使っている。
- 16 (   ) 教職員はホームルームと小グループでは子供たちと同じ権利を持つものとして行動している。
- 17 (   ) 全ての先生は少なくとも毎週一回の個人教師の時間を持っている。
- 18 (   ) 全ての子供はそれ一つですべての学習進行度を表す進歩表を持っている。
- 19 (   ) 客観的基準に基づく進歩表に対する評価テストがある。
- 20 (   ) T A (教師兼助言者) は少なくとも月に一回子供たちの教科学習の進歩状況を見るために子供たちに会わなくてはならない。
- 21 (   ) 進歩表の説明書を両親が利用できる。
- 22 (   ) 教職員はC 4 Rの規則に準じて両親との連絡を行っている。
- 23 (   ) 規律システムは適切に公正に使われている。
- 24 (   ) 規則違反の検討委員は2回目以降の全ての規則違反に対して集まっている。
- 25 (   ) 教職員は学校コンサルタントを利用できる。

合計点 (      )

なくとも構いません。これによって先生は、本当に授業を聞きたい子供に授業ができます。よい授業とは、最初にたくさんの子供たちがきて、最後に誰もいなくなる授業ということになります。

通常、C 4 R学校の1時限目と最後の時限は社会性のプログラムの時間になっており、T Aのグループで集まってホームルームをします。子供たちはホームルームに必ず出席しなければなりません。つまり、子供はこのとき教室に居なければなりません、ホームルームの話合いやゲームには必ずしも参加する必要はないということです。このときにT Aは子供たちの出席を調べます。このとき連絡無しに居ない子供は、C 4 R学校の“ルール2”に違反していることとなります。なぜなら学校がやっている時間中には子供は必ず大人の管理下にある場所に居なければならぬからです。子供たちが学校に来るのが楽しくなるように、そして学校が終わる頃には、学校であった嫌なことが忘れられるように、T A はホームルームが楽しいものになるように工夫しま

## C4R学校の訪問者用評価シート

もしよろしければ、御氏名・電話番号を記入して下さい。

もしよろしければ、貴方御自身についてお書き下さい。私どもは貴方のお仕事と教育に関して特に関心を持っています。

- 1 いつ、そしてどれ位、貴方は（ ）学校にいらっしゃいましたか。  
日時（ ）学校にいた期間（ ）
- 2 貴方はこの学校に評価を下せる程充分に見学できたと思いますか。（ ）

この学校特有の側面に関する評価やコメントがあればお願いします。

- 3 以下の点について評価をお願いします。評価点は以下の通りです。  
5－極めて優れている。 4－優れている。 3－とても良い。  
2－平均的である。 1－まあまあである。 0－おそまつである。

- (1) 設備について  
学校の建物自体と設備について学校に完全に人がいない所でどんな感じがしますか。

評価点（ ）

- (2) 教科教育プログラムについて  
教科教育の基本的な部分の学習状況はどうですか。

コメント

評価点（ ）

- (3) 創造性のプログラムについて

コメント

評価点（ ）

- (4) 社会性のプログラムについて

コメント

評価点（ ）

- (5) 規律の側面について

コメント

評価点（ ）

- (6) この学校と個人教育システムに対する御意見、御批判等があればどんなコメントでも御書き下さい。

この学校の総合評価点（ ）

す。

このようにして、C4R学校の特徴と利点を更に深く理解したい方は、以上の25項目の各々についてなぜそれが重要であるのかについて考えてみることをお奨めします。きっとこのシステムの素晴らしさに感心されることと思います。

### 4. 教員経験者の実地訪問

学校長は、学校は知っているがC4R学校を知らない退職した学校の先生のような人々を集め

てチームをつくります。彼らに、教員や子供たちに予告しないでおいて、C4R学校に来ていただいで評価してもらいます。彼らは学校の人たちにインタビューしたりしてC4R学校を見学し、訪問者用評価シートにコメントと評価を書き入れます。実地訪問ではC4R学校を学校外の人の目からみて評価してもらう事と同時に、この学校システムを他の学校関係者に知ってもらう事ができます。

コルシーニ博士が持っておられた20通ほどの訪問者用評価レポートを読んでもみると、全体的に評価が高く、評価点はどれも“3”以上で、特に規律については“4”、“5”が多かったです。「現実的には子供が学習上の多くの選択を自分の責任で選ぶのは難しいのではないか。」という意見がありましたが、これは子供の能力というよりは、子供を信頼するTAのカウンセリング的能力の問題であるように思いました。

そのほかにも手引きの中にはC4R合計シートの詳細や個人教育質問表シート、個人教育電話調査シートが記載されています。以上がC4R学校の主な学校評価システムです。

最後にシステム評価の重要性について述べます。C4Rシステムは、学校に関わるすべての人の権利（人間は学校の教室にも拘束されない自由を持つ等の基本的な権利を含めた）を守り、すべての人が責任を果せるよう勇気づけられる様に合理的、論理的、民主的に設計されています。したがって、規則内容の合理性、制定手続きの民主性、規則適用の平等性のどれか一つでも条件を満たさないような新たな規則を追加すると、このシステムは機能しないのです。かつて、校長によるたった一つの強制が、次々にシステムを駄目にして行った例がありました。また、C4Rシステムは民主的 school 機能を維持するための最小限の規則によって成り立っているのです。例えば一人の教員がGOシグナルを使う責任を果たさない等のルールの不遵守は全システムを混乱させてしまいます。したがって、コルシーニ博士御自身はC4R評価表の25項目を完全に守る事を強調して、「C4Rには2つの尊敬がある。一つは人に対する尊敬であり、もう一つはシステムそのものに対する尊敬だ。」と言っておられました。

コルシーニ博士には親切に評価表の25項目の質問に答えてくださって大変感謝しています。ありがとうございました。

## <文献>

- 1) Ignas, E. : INDIVIDUAL EDUCATION TRAINING MANUAL 1, Human Resources Center, The University of Chicago (個人教育トレーニングマニュアル1・2, 角野訳, アドレリアン, 4(2)、138-146, 1991; アドレリアン, 5(1), 46-53, 1991)
- 2) Individual Education Intenational: C4R MANUAL, Corsini Four-R System of Individual Education, the North American Society of Adlerian Psychology

## 更新履歴

2012年6月1日 アドレリアン掲載号より転載